

〔露地ナスにおける物理的防除技術を用いたアザミウマ類の管理対策〕

各種物理的防除法，土着天敵誘引方法の効果比較（3年目）

～アザミウマ類・害虫カメムシ類による被害・収量の比較～

大林隆司

（生産環境科）

【要 約】本試験ではアザミウマ類による明確な被害が発生せず，天敵温存植物や紫色 LED の果実被害防止効果は判断できなかった。また，両資材を設置しても収穫果数に影響しないが，害虫カメムシ類による被害は生じる。

【目 的】

露地ナスのアザミウマ類対策のため，天敵温存植物と紫色 LED を併用した栽培下における被害果の発生状況および収量を，生産圃場と同様の規模で検証する。合わせて，昨年までに被害が多発している害虫カメムシ類による被害についても調査する。

【方 法】

1. 栽培概要・試験区：前報の 1. 2. を参照。
2. 収穫調査：週 3 回（月・水・金曜日）の収穫のうち 1 回（水曜日），各区 1 畝 2 株（合計 8 株）の 15 cm 程度の果実を収穫し，果数を記録。期間：2023 年 6 月 21 日～11 月 8 日。
3. アザミウマ類による果実被害調査：収穫調査時に収穫した全ての果実の被害の有無を目視で確認し，被害果数を記録。
4. 害虫カメムシ類の被害調査：収穫調査時に収穫した全ての果実を輪切りにし，吸汁跡の有無で判断し，被害果数を記録。

【成果の概要】

1. アザミウマ類による果実被害：いずれの処理区ともアザミウマ類によるものと推定される被害果は確認できなかった。昨年の結果によれば，果実被害の原因となる花期の加害時期に記録された主なアザミウマ種はヒラズハナアザミウマであり，果実に被害を生じさせるアザミウマ類（ミカンキイロザミウマ等）の発生が少なかった可能性がある。
2. 収穫調査：収穫調査株 8 株の収穫果の合計は無処理区が 180 個，花区が 189 個，LED + 花区が 188 個で，無処理区がやや少なかったが，ほぼ同じだった（図 2）。
3. 害虫カメムシ類（主にツヤアオカメムシ）による被害：被害果の発生は無処理区が 7 月中旬，8 月下旬，9 月中旬，10 月上旬，LED + 花区が 10 月中旬と処理区により発生時期が異なった（図 1）。全期間の被害果率は無処理区が 7.8% と最も高く，花区が 3.2%，LED + 花区が最も低く 1.1% だった（図 3）。処理区の違いによる被害果率の違いは昨年までの結果とは異なり，天敵温存植物や LED 設置と害虫カメムシ被害果率との関連は判然としなかった。
4. 以上の結果より，天敵温存植物や天敵温存植物と紫色 LED の併用は収穫果数には影響しないと推定された。なお，アザミウマ類による果実被害に対しては，明確な被害果実が生じず，効果を判断できなかった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

害虫カメムシ類による被害対策が必要である。

（第 68 回 日本応用動物昆虫学会大会 口頭発表予定）

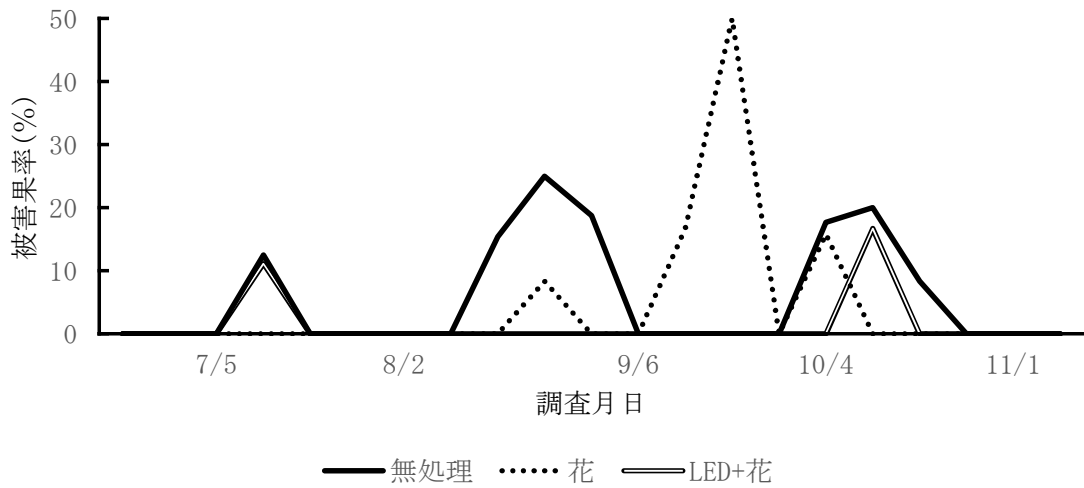


図1 害虫カメムシ類による収穫日（週1回：水曜日）ごとの被害果率の推移

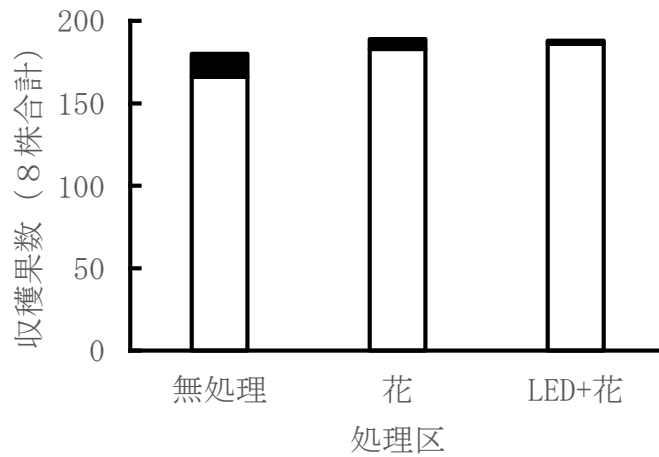


図2 全期間の収穫果数（各区調査株8株の合計）
□：無被害果；■：害虫カメムシ類被害果

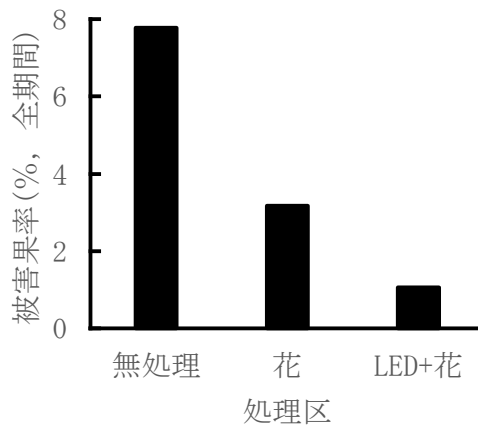


図3 害虫カメムシ類による全期間の被害果率